

財政・社会保障の持続可能性に関する「経済分析ワーキング・グループ」
中間報告たたき台

本中間報告は、財政・社会保障の持続可能性に関する議論の中で主な論点と考えられるものについて、本ワーキング・グループの構成員が共有できる標準的な見解を示すことを目的とするもの。

1. 財政健全化と景気・経済成長との関係についての考え方

(1) 成長、物価上昇により財政健全化を行うとの考え方について

- 経済成長が財政収支に及ぼす影響を考えるにあたって重要な概念である税収弾性値は、現在は1強とみられ、著しく高い税収弾性値を前提に、物価上昇や名目成長によって大きな自然増収を期待することは適当ではない。
- 実質成長を伴わない物価上昇は、税収のみならず（税収を大幅に上回る）歳出も増加させることから、財政収支を悪化させる可能性が高い。一方、実質成長率が高まる場合には、財政収支が改善する可能性が高まる。
- 物価上昇による実質債務軽減について（岩本専門委員）
- 日銀の国債引き受け、通貨発行益を積極的に活用すべきとの議論について（岩本専門委員）
- 従って、民間需要主導による実質成長の実現が必要不可欠。ただし、現在の財政赤字の大半は社会保障を中心に構造的なものであり、今後更に拡大していく可能性があることにかんがみれば、高い成長が実現してもそれだけでは財政健全化は不可能。なお、財政健全化を考える際に前提とすべき慎重な成長率は、政府が用いている1%程度のみでなく0%ないしマイナス成長も考えるべきとの考え方もある。
- 上記を踏まえると、実質成長の実現に加え、歳出の見直し、新たな税負担も合わせた3つを同時に推進していくことが必要。特に、社会保障を持続可能にするためには、重点化の更なる取り組みが必要。
- 構造的な赤字の改善については、課税による負担をできるだけ平準化するとの観点も踏まえ、早期に取り組むことが適切。なお、景気への配慮が必要な状況が生じた場合には、短期と中長期の政策運営を区分し、構造的な赤字の改善努力とは別に景気への対応を考慮することが望ましい。

(2) 消費税率引上げと景気動向との関係について

- 過去の引上げが景気後退の「主因」とは考えられない。
- 独、英における付加価値税率引上げの影響は、引き続き注視する必要があるものの、景気後退の原因とはなっていないとみられる。

- 社会保障の安定財源を確保するための消費税率の引上げは、生涯の納税額を変化させない（いつかは増税が必要である）と受け止められ、結果として、経済に与える影響（所得効果）も、限定的なものとなる可能性。
- 引上げのタイミングについては、景気が成熟する前であることが望ましい。
- 段階的な税率引上げが望ましい。

2. 格差問題についての考え方

(1) 消費税の逆進性への考え方について

- 生涯所得でみた消費税の負担は、ある一時点の所得でみた場合と比べ、逆進性が小さい。
- 仮に逆進性に対応する場合、食料品等に軽減税率を適用するという対応は非効率との見方が一般的であり、税制・社会保障全般の見直し（給付付き税額控除を含め）の中で対応すべき。

(2) 格差問題への対応について

- 格差問題への対応については、雇用、社会保障、福祉、税制等総合的な観点から対応を考えるべきであり、消費税のみに限定して議論するのは適当でない。
- 我が国は、富裕層への所得集中が進むといった状況にはないものの、ジニ係数でみた所得格差は（一部鈍化の兆しはみられるものの）長期的には概ね上昇傾向。
- 高齢者世帯は、社会保障の受益も大きく、消費税を負担してもネットでは受益超となる。受益と負担を合わせて議論すべき
- 格差への関心が高まる中で、税制・社会保障制度の改革が所得分配に及ぼす影響の更なる分析が必要。真に必要な者に絞って重点的に給付を行うべき

(以上)

(別紙)

今後の検討課題

来月以降、本ワーキング・グループとして、以下の課題について検討を深めていってはどうか。

(1) 市場の信認との関係

- ・ 財政の持続可能性の基準とそれに照らした我が国財政の評価
- ・ 国債市場の信認を支えてきた要因（経常収支黒字の行方、国債残高と個人金融資産の関係、国債市場の特性等）をどう考えるか

(2) 景気対策と財政・社会保障の持続可能性の考え方

- ・ 景気対策についての財政規律をどう考えるか
- ・ 構造的財政収支・循環的財政収支と社会保障勘定・非社会保障勘定の関係をどう整理するか

(3) 格差問題の更なる検討

- ・ 格差への関心が高まる中で、税制・社会保障制度の改革が所得分配に及ぼす影響を分析すべきではないか
- ・ 社会的納得感を得つつ、社会保障の効率化を図るにはどうすれば良いか
- ・ ストレスの最大の発現である自殺について、年齢構成の変化、高止まりの背景等をどう考えるか

(以上)